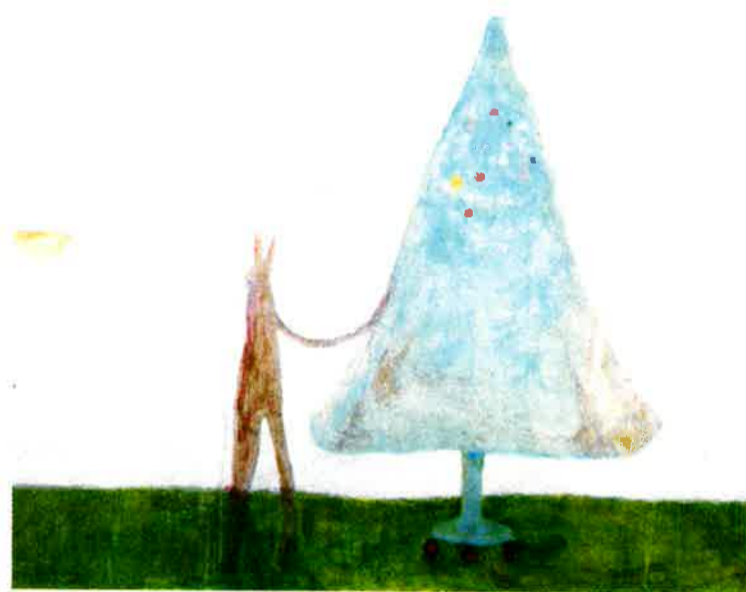


撮影：山本料



杉戸洋《the day going back home》1996年 © Hiroshi Sugito

クレマチスの丘は、 15年目の春を迎えます



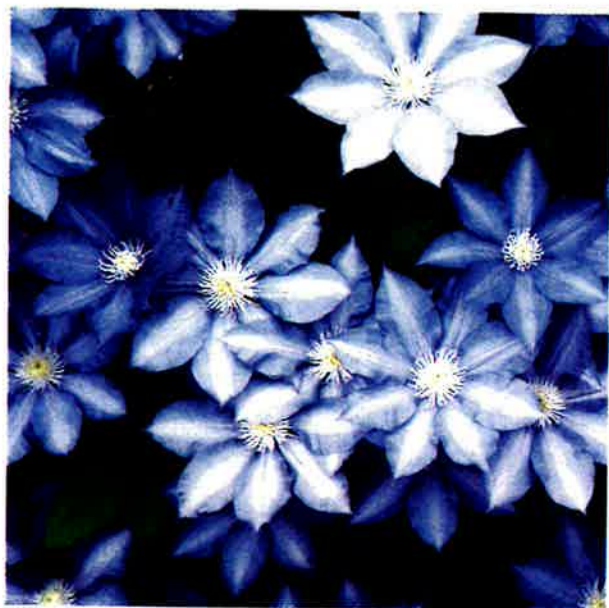
© Hiroshi Sugimoto / IZU PHOTO MUSEUM

東京から新幹線で50分ほど。

クレマチスの丘は、四季折々の花が咲く庭園と
3つの美術館とレストランが立つ複合文化施設です。

日常から少し離れ、

花とアートに触れてこの丘でひとときを過ごせば、
眠っていた心の一部が動き出します。





花一輪とアートを 同じ目線で見つめる場所

「サッと視界が広がって、ここに来ると空が近い気がしますね。アートに触れる前に心が解放される感覚が気持ちいいんです」そう語るのは、建築家エドワード鈴木さんと、奥様で北欧の日用品を扱う会社を営む高橋百合子さん。今から10年以上前に、「クレマチスの丘」と出会ってから、ふたりの大切な場所として、何度も訪れているのだと言います。到着してまず足を踏み入れるのが「ヴァンジ彫刻庭園美術館」。イタリアの彫刻家ジュリアーノ・ヴァンジの個人美術館です。実は、この美術館内には、地元長泉町の花でもあるクレマチスが、約250品種植栽された「クレマチスガーデン」があり、庭園内には彫刻作品が自然と溶け合うように点在しています。来館者は、庭を歩き、彫刻と向き合い、花一輪とアートを同じ目線で捉えることができるのです。

「私が、クレマチスの丘が好きなのは、庭も

今度の週末は 庭園と美術館のある丘へ

上／美術館エントランス周辺。広い空の下で、作品に秘められた思いを読み解く。

右／館内にて。《三つ編みの女》は御影石で作られた作品。



美術館も、ありのままにそこにあるところなんです。「これを見て」と主張することなく、ただ四季折々に咲く花を自分の家の庭のように眺められる。そして、花を眺めるように彫刻と向き合える。何も構える必要がなく、す〜っとその時々自分の心に何かが入ってきてくれます」と高橋さん。

クレマチスの最盛期は、5〜6月ですが、四



季節々楽しめる花です。春には春に、冬には冬に、そこで咲くクレマチスがある……。その季節にしか出会えない花の姿を追って訪ねてみるのもいいかもしれません。

そして、風と光に導かれて美術館内へ。現代アートや彫刻に馴染みがない人も、ひとつの作品とじっくり向き合ってみれば、きっといつもと違う心のパーツが動き出すはず。

彫刻は、見る位置によって、まったく違った表情が出てくるもの。後ろから前から、下から……。彫刻の声に耳を傾けると、日常とは違うゆったりとした時間を味わえます。

3つの美術館で 3つの豊かな時間を

今年クレマチスの丘は、15周年を迎えます。この地にアートの種が蒔かれたのは、それよりもさらに30年ほど前へとさかのぼります。1973年に「ベルナル・ビュフェ美術館」が開館。創設者である岡野喜一郎氏は、上野の美術館で開催された展覧会で戦後の具象画壇を代表する画家、ベルナル・ビュフェの作品と出会い、感動して絵の前に呆然と立ち尽くしたと言います。「当時のわれわれ青年を^{おお}掩っていた敗戦による虚無感と無気力さのなかに、一筋の光芒を与えてくれたのが、彼の絵であった」(岡野喜一郎「時代の証人我がビュフェ」/日本経済新聞刊)。これをきっかけに、ビュフェ作品をコツコツと蒐集し続け、自身が会長まで務めたスルガ銀行の発祥の地でもある静岡県東部に、「一人の天才の才能を通じ、この大地に文化の花さくことをのぞむ」と、念願の美術館を創設しました。

ひっそりと森の中に佇む小さな美術館を、もっと多くの人に親しんでほしいと願い、ヴァンジ彫刻庭園美術館をつくったのが、喜一郎氏の遺志を継いだ息子の喜之助、けい子夫妻でした。また孫の岡野晃子氏の世

代では、子どもから大人まで、より地域に開かれた美術館になるよう、1999年にビュフェ美術館内に「ビュフェこども美術館」を併設。2009年には写真と映像の美術館「IZU PHOTO MUSEUM」も開館しました。一粒の種が、3世代にわたって生まれ、今、このクレマチスの丘はまさに文化の花が咲く、豊かな実りの時期を迎えています。

思い立ったら 自然とアートに触れる休日を

ヴァンジの彫刻を見た後、エドワードさんと高橋さんは「リストランテ プリマヴェーラ」へ。地元の野菜をふんだんに使った美しい一皿一皿は、おいしいアートのようです。「このほか、カジュアルにピザや前菜をいただける『ピッツェリア&トラットリア CIAO CIAO』や『日本料理 tessens』など、その日の気分に合わせて訪れることができるレストランがあることも魅力ですね」と高橋さん。お腹がいっぱいになると、歩いてベルナル・ビュフェ美術館へ。

「森の中を歩き、吊り橋を渡り、深い谷を覗き込んだり、木々を見上げたり。クレマチスガーデンとはまた少し違った自然と触れ合えます。この敷地内では、移動のひとときさえ豊かなんですね」とご夫妻。

クレマチスの丘は、神奈川県に隣接する静岡県東部に位置し、東京からこたまで50分ほど。三島駅からは無料シャトルバスにすぐに乗れるので、週末の朝、思い立ったら出かけられるアクセスのよさも魅力です。「ここは、『見る』ではなく『過ごす』場所ですね」と語る高橋さん。五感で自然を感じることで感性が目覚め、アートと向き合うことで心を耕す。自然とアートに触れるひとときは、明日からの日々を輝かせる力となって、訪れる人の心に宿ります。

ふたつのベンチが仲良く並ぶ「くすの木
の丘」は人気のスポット。足元には、原種
のシクラメンやクロッカスなど、四季折々の
小さな球根性植物が顔を出す。



数々の白花のクレマチスを集めた「ホワイ
トガーデン」。ここに隣接して、ハーブ
ティーやクッキーなどを楽しめるティーハ
ウス「ガーデナーズハウス」がある。



クレマチスガーデンを見下ろす「リストラ
ンテプリマヴェーラ」は窓の外に緑の木々
が広がる開放感あふれた空間。地元の野
菜をふんだんに使った本格イタリアンを。

